

沖縄キリスト教短期大学報

那覇市首里当蔵町3-6-1
沖縄キリスト教短期大学
電話(0988)87-5161
発行人 学長 大城 実
編集人 事務局 総務課

字報の担当若から急遽一面の執筆依頼を受けたのであるが、殆ど時間的余裕が無くて想はくままに雑感を記述して責任を果したい。日本キリスト教団出版局が「信徒の友」五月号の「キリスト教主義学校を訪ねて」の欄に、沖縄キリスト教短期大学取材し、その過去・現在・将来について御紹介して下さった。その反応は大きく各地から「一坪献金」(移転用地取得の目的)の為に尊い浄財が捧げられ、深い感謝と感激を覚えるものである。

私の大学時代の先輩で一九五一年尼崎の国際ワーク・キャンプで御一緒だったKさんは、三〇年近くもお会いする機会も文通も全く無かったのに、早速一坪分の献金を送って下さり心暖まる想いで一杯だった。私共学内の理事達は、北は北海道から南は八重山まで教区や教会を訪問して、本短大の現状を報告し協力支援を訴えて来たのである。重要議案で日程がギッシリ詰っている中へ割り込むようにして、諸教区へ押し掛けて行ったのであるが、全ての教区が私共を心から迎えて下さり、貴重な時間を割愛して本短大の現状と将来の展望についての説明に熱心に耳

を傾けて下さった事は、この上ない感謝であり大きな励みであった。何よりも沖縄に存立する唯一のキリスト教大学として沖縄キリスト教短期大学があること、そしてその建学の精神と教育活動の一端について全国の多くの兄弟姉妹に知って頂いたことは深い意味があったと思うのである。

最近沖縄に訪問伝道講習会の講師として来島された大阪のT牧師は、教会からの献金として二坪分をお捧げ下さった。深い感謝を覚え刀強い励みを感じた。ご多忙の中、先日ハワイから久方振りに出身地の沖縄を訪問されたG氏より、一千ドルの御献金を受けた時は、海外におられる諸兄弟姉妹によっても本短大が主になつて覚えられている事を、感謝の中に実感したのである。尚宮古の同窓生一同から、一人一口は無理なので、みんなで一致協力して集めた一坪献金ですと言つて一〇万円余を、学長への書簡と共に送って下さり、嬉しさと感激で一杯だった。自分達の学校は自分達で守り育てて行かなくてはと言つた母校愛の情熱と強い意気込み、或は使命感みたいなものを感ずることが出来、これこそ

が学校の生ける財産である事をしみみ感じた。その他多くの教会や個人から一坪献金運動のための尊い浄財が寄せられている。何よりも感謝しなければならぬのは、沖縄キリスト教短期大学が真の創設者イエス・キリストの御導きと御支配の許で、全国各地にある諸教会と諸兄弟姉妹によって覚えられているという恵みの現実である。この様なガバー(恵み)に対して私共のアウフガバー(課題)は実に重く大きいのである。

一億五千万円目標達成にはまだ遙かに遠く、募金活動一ヶ年を過ぎた現在三千万円、即ち目標額の二〇%にしか達していない状況である。私共関係者一同の努力は勿論のこと、卒業生各位、全国の三に在る諸兄弟姉妹に有志の方の、御加護、絶大なる御協力御支援を切に願うものである。

私学の経営は非常に厳しい。とは言え、経常費に関しては、文部省からの補助金があるため可成り緩和されている事も事実である。然し沖縄の私学、殊に私大は本短大も含めて極めて困難な状況に置かれている。沖縄キリスト教短期大学は、復帰時の入学定員二五〇名(現在も同じ)に対して校地面積の基準充足率が六〇%を割つた厳しい状況にある。施設整備の充実には、決定的なスペースをフルに用いて可能な限り行われて来た。それでも校舎面積も入学定員の基準に達し

てはいない。復帰後小中高校は復帰特別措置で、琉球大学は国立移管で、その施設整備は目を見張る程変貌を遂げた。その様な状況下で殆どの私大は取り残され、日当りの悪い谷間を這上ろうと苦闘しているのである。特定の大学を除いて、復帰時で済ませる私大への政府援助はゼロであった。文部省は基準未達成のまま認可し、その達成は自力でやって行かなければならないと言つことになった。従つて本短大の移転事業は、物理的には半ば大学新設の重荷と課題を担っていると言つても過言ではなからう。

この移転事業は、ミクロの視点から言えば短期大学としての基準充足と定員増等に向けての基礎的作業である。毎生、英詩、保育科への多数の応募者の要望に応じきれない状況がある。然しマクロな観点から言うならば、沖縄キリスト教短期大学で学びたいと言う学生を、本学の掲げる建学の精神とユニークな教育によって、神と隣人及び社会に対して責任を担つて行ける人間を養成して行くための環境整備に他ならない。弱き我等を助け拾へと祈らずにはおれない。目的たる人間と手段である知識技術が本末転倒している今日、本学がその本来の使命を完う出来るよう多くの皆様のお祈りと暖かい愛の御配慮を願うものである。

(副理事長)

「皆様の愛に感謝して」

宗教主任 金城 重明

が学校の生ける財産である事をしみみ感じた。その他多くの教会や個人から一坪献金運動のための尊い浄財が寄せられている。何よりも感謝しなければならぬのは、沖縄キリスト教短期大学が真の創設者イエス・キリストの御導きと御支配の許で、全国各地にある諸教会と諸兄弟姉妹によって覚えられているという恵みの現実である。この様なガバー(恵み)に対して私共のアウフガバー(課題)は実に重く大きいのである。

一億五千万円目標達成にはまだ遙かに遠く、募金活動一ヶ年を過ぎた現在三千万円、即ち目標額の二〇%にしか達していない状況である。私共関係者一同の努力は勿論のこと、卒業生各位、全国の三に在る諸兄弟姉妹に有志の方の、御加護、絶大なる御協力御支援を切に願うものである。

私学の経営は非常に厳しい。とは言え、経常費に関しては、文部省からの補助金があるため可成り緩和されている事も事実である。然し沖縄の私学、殊に私大は本短大も含めて極めて困難な状況に置かれている。沖縄キリスト教短期大学は、復帰時の入学定員二五〇名(現在も同じ)に対して校地面積の基準充足率が六〇%を割つた厳しい状況にある。施設整備の充実には、決定的なスペースをフルに用いて可能な限り行われて来た。それでも校舎面積も入学定員の基準に達し

一坪献金感謝報告(3)

1982年2月1日～1982年5月31日(順不同 敬称略)

ご献金ありがとうございます。
感謝をもってご報告いたします。

会社・団体		個人		個人		個人		個人		個人	
大宝証券(株)	35,000	与勝教会	37,700	金城好子	35,000	大城宜武	218,000	小宮昭雄	70,000	林良高	15,000
沖繩製粉(株)	35,000	世田谷平安教会	30,000	太田マリ子	1,500	比嘉健次郎	30,000	川平朝清	10,000	矢崎邦彦	3,000
双葉保育園	3,000	枚方くずは教会	35,000	和宇慶由美子	1,500	漢那憲治	25,000	遠藤光	35,000	金氏義憲	35,000
富士ゼロックス	175,000	志村栄光教会	35,000	山城典子	1,500	中村秀樹	4,000	金永野光男	35,000	安谷屋政信	23,705
沖繩営業所	150,000	上大岡教会	129,357	国金城京子	1,500	知花正盛	110,080	奥井八重子	3,500	CHOYO GIMA	\$1,000
(株)沖繩銀行	150,000			金上原島あじみ	10,000	前里勝彦	4,000	山田守	10,000	天野卯吉	3,500
西中国教区山口	31,411					崎山恵子	4,000	和田新之助	35,000	川平朝清	10,000
中分区信徒大会	35,000					金城ミサヲ	8,000	樋口伴平	35,000	本島宏充	3,000
(株)沖繩相互銀行	35,000					栄野比那加代子	8,000	中島本喜代子	35,000	三崎宗太郎	35,000
糸満支店	30,000					与那地政之順	40,000	山崎一武	3,500	宮原城順	10,000
沖繩キリスト教書店	30,000					津波古きくえ	20,000	藤原城錦	35,000	石井由他	2,000
伊江村役場	35,000					宮元和隆	40,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
(株)ブリマ	100,000					真栄城紀子	8,000	藤原城順	10,000	金井由他	2,000
ユナイテッド	70,000					吉永敏勝	40,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
ユナイテッド	70,000					照屋美代子	40,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
沖繩経営研究会	50,000					新垣政信	12,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
一戸こどもの家	10,000					儀間朝健	40,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
職人固教会	105,000					伊志嶺博定	85,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
福岡警固教会	105,000					松田定道	12,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
沖繩県町村会	35,000					松我謝和子	15,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
教会						David & Keiko Gray	35,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
玉島教会	35,000					金城重明	50,000	山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
高規教会	35,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
立花教会	2,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
小郡教会	15,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
菲崎教会	10,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
久留米東町教会	15,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
茂木東教会	3,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
宇都教会	35,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
長崎古町教会	5,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
桑原伝道所	10,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
八重山中央教会	3,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
福岡中部教会	35,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
三重教会	10,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
奥沢教会	10,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
青山町教会	3,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
京北教会	15,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
玉出教会	35,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
福井神明教会	10,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
千歳船橋教会	20,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
玉川教会	5,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
鹿児島城南教会	15,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
宮ノ木教会	35,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
柿ノ木教会	5,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
静岡一番町教会	5,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
西原教会	5,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
伊予小松教会	10,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000
美里教会	35,000							山崎一武	3,500	西崎美代	1,000

第一次移転事業計画概要

決定される！

理事会は、教育・研究活動の一層の充実・強化を図り、県内外の本学に対する大きな強い期待に応えるため、第一次移転事業計画の概要を決定しました。第一次移転事業計画の柱は、(一)校地購入、造成事業、(二)附属幼稚園設置の二本柱であります。事業開始年度は、一九八二年度予定であります。校地は西原町内に一万余坪の予定で、土地利用上農地等の若干の問題を含んでおりますが、基本的には「文教のまち西原」の基本的な趣旨に沿って進めたいと考えています。同をされ、本学の直面する課題を支援される為に附属幼稚園建設資金の一部として金三千万円の御寄付を申し出られました。理事会はこの御芳志を受けて、附属幼稚園設立準備委員会を発足させました。以上二本柱の事業の実行計画は、遂次関係機関等の議を経て、理事会で決定し実行していくこととなります。この事業推進上の大きな課題は、一坪献金運動の強力な推進、学院債権者依頼の資金造成事業であります。幸い、沖縄テリス

構想を充足していくものであり、行政機関の承認等も得られるものと思えます。行政機関への書類提出準備中であります。附属幼稚園については、保育料の積年の課題の一つでありました。大学の教育、研究は、現場の実践と研究とによって補足され、批判されて深化していくことであり、実践理論が附属幼稚園設置により一層強化充実することは大学の責任であり、喜びであります。幸い、大山保表氏御夫妻が、本学の建学の精神に深い御理解と賛

ト教短大のためならノと多くの御献金が寄せられています。(献金については感謝録御参照下さい) 私たちは献げて下さった方々のお手紙を読みながら感謝の念を深くすると同時に、主の私たちに依託される事柄の重さを感じています。今後とも沖縄キリスト教短大の為に御加勢下さい。



「英文学とイタリア」をテーマに、昨年四月から一年間、留学するを得た。滞在はイタリア中部のペルージャである。以下、限られたスペースで、表題の通り報告したい。

ペルージャはローマから北へ列車で三時間半、人口十三万の町である。ローマ時代以前からの町で、小高い丘の上にある。私が研究生活をおくったペルージャ大学は、六七〇年の伝統を誇る総合大学で、建物は学部ごとに町の各地に散らばっていた。哲学科、文学科、言語学科から成る人文学部だけは町の中心部の近くにあった。

海外研修を終えて

島 袋 忠 雄

国際語としての英語の重要性がたかまわっているのを反映してか、英文学科はなかなかの盛況ぶりだ。講義は小講堂を思わす教室で行なわれ、百人前後の学生が詰めかけた。女子学生が圧倒的に多いのは日本と共通した現象だ。ケンブリッジのドクターを持ったある教授は、チョーサーからシェイクスピア、ジョイスとひとりで幅広く担当していた。

イタリアの大学は、少数の神学校を除いてはすべて国立である。入試はなく、高校卒業の資格を持つ者なら、誰でもどの大学へでも入学できる。大学に「入学する」ことをここでは「登録する」とい

オリエンテーション・キャンプについて

英語科一年 村山 広江

私がキリ短を志望したのは、まず少人数教育であるということ、そして、その為に先生と生徒が一体感を持てる数少ない学校のひとつであるという理由からだ。そのユニークさは、去ったキャンプで十分うかがい知れた。

ノン・マスプロであるからこそ、あのようなうちくつろいだ雰囲気の中で、実に円滑に生徒達がお互いを知り合えたのだと思う。私の場合、キャンプに対する出発前の印象は、それほど悪くはなかったが、「キリ短には五月病は存在しない」と豪語する先生がいらして、それには正直言って内心苦笑していた。しかし、いざキャンプに参加して、先生の言われたことを認めざるを得なくなった。寝食を共にしたクラスメイトは、もう何年も前からの友達のように感じられたし、連日のディスカッションには、知的探求心をおおいに触発されたのである。

クラス毎に宿舍の割当を行なったのは成功だったと思う。何よりも、キャンプ後のクラスの雰囲気、みながえるように明るくなった。ただひとつ難点を言えば、ディスカッションの際、会の進め方にややもたつきが見られた。先生とヘルパーの方々の事前の打ち合

たが、大変貴重な経験をさせていただいたことは、感謝であった。周知のように、同地域は、米国の信託統治下にあるが、その住民は、今重大な政治的選択の時期を迎えている。信託統治に代って Compact of Free Association という、アメリカとの新しい関係が提示されているからである。

Free Association という形ではあっても、アメリカへの依存を続けるか、独立を取るか、近い将来住民投票により意志決定をすることになっているとのことであった。どこへ行っても、その話題が人々の関心を集めていた。軍事基地の多いマーシャル諸島は緊迫した状況にあった。単に異民族支配からの脱却という問題だけでなく、何のために自分たちの土地や海が使われるかという問題を含めた選択であり、住民の苦悩は大きい。

異民族支配といえば、特に印象を強くしたのは、スペイン、ドイツ、日本、アメリカの支配を受けながら、各々の地域が、独自の言語を保存しているということであった。それ以前のことには知らないが、日本の統治下で日本語による教育を強られ、今アメリカによって英語が巧妙におしつけられている史実を考えると、言語を守り、自らのアイデンティティを保持しようとする姿には、ただ敬服するばかりである。

それにつけても、せっかくのチャンスを与えられながら、彼らにとっては支配者の言語でしかない

わが十分でないように感じられた。しかし、キャンプ自体は、大学生活へのオリエンテーションという所期の目的を達成したという点で、一応の成功をおさめたと言えるであろう。

楽しかった

スポーツ・デー

スポーツ・デー実行委員長

保育科二年 島袋 晴子

去る六月一日に那覇簡易保険レクセントにおいて、八二年度前期スポーツデーが行なわれました。前期スポーツ・デーは、球技大会でバスケット、バレーの二種目により、英語科・保育科、そして教職員を交えてのトーナメントで試合が繰り広げられました。

回を重ねるたびに、参加者が増え、「より良い学生生活を送るために、スポーツを通しての健康な体力づくりと、学生同志の親睦及び教職員との親睦を深める」という主旨ののっとりスムーズに進められました。学生・教職員らは、日頃の運動不足を一気にこれで解消。生き生きとした学生の姿、はりきる先生の姿など、別の良い一面を見たように思いました。そして、クラスごとに大声をあげて応援する頼もしさ、全体の印象としてとても雰囲気の良い、楽しいスポーツデーでした。これも、学生、そして教職員、一人一人の協力のおかげだと思えます。

人間にとって運動すること、健康にもつながります。ですから、健康にもつながります。です

英語と日本語でしか、住民たちとコミュニケーションできない自分が情なく、つらい思いの毎日であった。私の生地であるだけに、もどかしさは一入である。

島中宗一講師に文部省科学研究費補助金交付される

本短大保育科・島中宗一講師に文部省の昭和五十七年度科学研究費補助金(九〇万円)が交付されることが決定した。島中講師は、科学研究費補助金の奨励研究(A)の分野で「社会福祉行政の守備範囲に関する基礎的研究」をテーマに研究を行うもので、特に沖縄の社会福祉行政の中でも「母子福祉行政」に焦点をのぼった研究内容とするものである。

同補助金の交付は、本短大では島中氏が初めてであり、氏の研究に大いに期待するものである。

学内人事

氏名	所属	職名	年月日	前職名
格 渡久地 政順	一般教育	助教	一九八二年四月一日付	講師
昇 糸数 美智子	保育科	講師	〃	〃
動 山原 恵治	事務局	総務第二課長	一九八二年四月十五日付	〃
異 新垣 政信	教育学部	教育学第二課長	〃	総務第二課長

から、日頃から体を鍛えて、心身ともに明るく楽しい生活が送れるよう、心がけたいものです。

再び学術研究助成金

私学振興財団より80万円

大城実学長を代表者とする沖縄キリスト教短大生涯教育研究会(大城実他六名)は、昨年に引きつづき私学振興財団より八〇万円の学術研究振興資金を受けることになった。「沖縄における短大教育の役割と学習社会」を研究課題に、地域住民の学習社会に対する意識調査、ならびに短大への役割期待に関する調査を実施することになっている。学習社会の理念型を明らかにすることによって、短大の存立基盤を確立することを研究の目的としている。

前年度は同財団より一八〇万円の助成があり、現に学習社会に参加している者を対象にして社会調査が行なわれた。調査の結果は「成人の学習に関する調査——沖縄における短大教育の役割と学習社会(その一)」として六月中旬に刊行された。



図書館だより

図書館には、毎年のように多数の方々から貴重な図書の寄贈があり、館員、特に整理係は文字通り嬉しい悲鳴を上げております。先頃も、那覇ルーテル教会 G・柴田牧師より「The International Critical Commentary 等計六四冊、本短大二期生島袋喜代子氏より「ふるさとの旅路 全十四巻」等計三五冊を受贈しました。又、泊パプテスト教会・名護良健牧師は、一九七九年以来「日本思想大系全六七巻」を刊行の順を追って寄贈を続けてこられました。六月の最終回配本をもって全巻完結いたしました。長期間に渡るご協力に改めて感謝申し上げます。

学術書・教養書いずれも大学図書館には欠かせない資料です。大切な蔵書を寄贈される愛書家の方々のご厚志に応え、図書館のより一層の充実のために努力していきたいと思っております。